

中心市街地と下浜地区の現状と提案

宮崎大学 地域資源創成学部 1年 5班

中心市街地

都農町の中心市街地を探索したところ、高齢化や旧十号線の危険性などの問題点を発見した。この問題たちの解決に向け私たちは以下の案を提案する。

中心市街地の現状

・現在都農町では高齢化が進んでいる。右の図は全国と都農町の65歳以上の高齢者を比較したものである。これから見てとれるように都農町の高齢化率は全国を上回っている。また、年々高齢者率は増加傾向にあるのが見て取れ、このままでは2040年には人口の4割が65歳以上になってしまう。



・中心市街地を通っている旧十号線は歩道の幅が狭く、通る車のスピードが速いため歩くのが危険となっている。また、旧十号線に面している建物で今は営業していないお店を複数確認することができた。シャッターが閉まっている店や、建物内に何も無い店等があった。都農町民の方のお話によると、昔はぎわっていたがコロナや人口減少のせいで活気がなくなってしまったらしい。



写真1 (筆者撮影)



写真2 (筆者撮影)

中心市街地の課題

・中心市街地の現状を踏まえたうえで都農町の課題は「**高齢化への対応**」と「**まちの活気を創出する**」ことの2点だと考えた！



解決するために...

みんなで歩いて健康のまち！プロジェクトの提案

・概要
私たちの提案する「みんなで歩いて健康のまち！」プロジェクトとは、都農町の中心市街地をみんなでのんびり散歩することを軸にしたプロジェクトである。このプロジェクトで町内を散歩することにより高齢者の方々の運動を促す。また、散歩を行うコースを都農町外の人にも知ってもらえるようなコースにすることで都農町の交流人口の増加につなげる。

内容

- 都農町内をみんなでのんびり散歩する
- 町民にも町外の方にも、30分～2時間を目安に「都農町」を見てもらえるような散歩のコースを提案
- 町内外を問わずたくさんの交流が生まれてほしい！
- 休憩施設としてベンチやイスを道端に設置



イメージ図2 (筆者作)



イメージ図2 (Googleマップをもとに筆者作)

問題点と解決策

○歩道が狭く、白線が消えかかっている箇所が多数あるため、歩道がないに等しく安全に中心市街地を歩くことができない。
→道路・交通施設の整備方針の中の「居心地がよく歩きたくなる道路作り」について、旧十号線は現在の車幅(8メートル)から15メートルに拡幅すると示されている。そのため、この問題は将来的に解決されると考えられる。

参考文献

宮崎県都農町の人口推移 | 日本の人口推移、<https://population-transition.com/population-1867/#i-8>, (1月25日)

山間地

下浜地区を散策し、下浜地区の方にお話を聞いて、空き家問題と避難対策に課題を発見した。私たちは避難対策に着目して、以下の案を提案する。

下浜地区の現状

下浜地区は現在、空き家問題や避難対策に悩まされている。空き家はわずか2カ月の間にも増加しており、災害時に崩れる危険が懸念される。



空き家をそのまま放置するのは危険!!
しかし、取り壊すのにもお金がかかる
たとえ取り壊せたとしても建設基準法により新しく立て直すことができない...



また、坂の多い下浜地区での高齢者の避難をどうするのが問題である。元自治会長の正田末広さんのお話から、各家庭ごとに個別防災無線機、海拔表示17個、バッテリー付き街灯17本が設置されていることと避難訓練がコロナ禍で中止されていることがわかった。

下浜地区にあるみなと児童館では0～18歳の子供とその保護者を対象に子ども食堂やイベント行事を行っているが、現在の利用者は少子化とコロナの影響で9人と減少している。子ども食堂も今はテイクアウトのみで不平等がないように、困窮家庭の子供には福祉課と連携して食券を使って食事を渡すようにしてる。



下浜地区の課題

下浜地区の現状を踏まえて私たちは特に避難対策に着目した。下浜地区の課題は「**高齢者一人での避難が難しいこと**」、「**避難経路が複雑**」、「**世代間交流の場がない**」の3点だと考える。

防災スタンプラリーの実施

解決するために...

・概要
「防災スタンプラリー」とは、津波の被害が予想される下浜地区において、避難経路の確認や体力づくり、下浜地区の方同士の交流を目的とした取り組みである。実際に避難経路を歩くことで、危険箇所の確認や避難に要する時間の確認を行い、災害が起きたとき慌てず行動できるように促す。

内容

- 防災ミッションをコンプリートしながらゴールとなる避難所を目指す
- 防災・避難に関するクイズを出題し、防災に関する知識を身に付ける
- 災害時に倒壊する危険性がある空き家の場所も把握してもらう
- マップにXをあらかじめ記載する

クイズ例→

Q.01「緊急安全確保」「避難指示」「高齢者等避難」のうち、避難を開始するのは「緊急安全確保」が発令されたときである。○でしょうか? Xでしょうか?

Q.02震度は、地震の揺れの程度を示しているが、現在日本では、7段階に区分されている。○でしょうか? Xでしょうか?

問題点

- 坂が急勾配な箇所が多くある
- 家と家の間の道が狭く、車をでの避難が困難である。

期待される効果

- 避難時のイメージがしやすくなる → 「誰」と「どこに」、「どこを通過して」避難するのかわかる事で災害時にスムーズに避難所まで移動することができると考えられる。
- 下浜地区の津波の被災者を軽減することができる → 多世代で交流することにより、住民同士の認知の向上が見込まれる。その結果、避難を行った際に

「○○さんがまだ来ていない」

「○○さんは1人で避難ができない」

と言った声が上がると、避難できずに取り残される人が減るのではないかと考えることができる。

調査概要

【日時】
12月16日・17日
【調査地区】
南新町、下浜地区

【主な訪問先】

・BONLISSA
YARD1927
・岩本写真事務所
・龍雲寺
・みなと児童館